

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 80 号

Relationships between psychological safety and work engagement in fitness club employees

(フィットネスクラブ従業員における心理的安全性とワーク・エンゲイジメントに関する研究)

稲葉 健太郎 (いなば けんたろう)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

フィットネスクラブの従業員はヒューマンサービス職として顧客に丁寧な対応を求められ、職務特性上身体的負荷が高く、常に人材不足という課題を抱えている。本研究はこのような課題に対して日本国内ではまだ研究蓄積がほとんど無い心理的安全性という概念を取り入れ、従業員のワーク・エンゲイジメントという観点から心理的安全性がもたらす影響を定量的に示した点に独創性がある。日本のフィットネスクラブの労働環境や現状に踏み込んだ背景を提示できれば、より研究の意義を示せるだろう。

【研究方法の妥当性】

本研究の質問紙調査で使用した心理的安全性尺度はオリジナルの英文を日本語に翻訳して使用されているが、ネイティブの専門家によって翻訳、バックトランスレーションがされており信頼性が担保されている。質問紙調査は WEB フォームを用いたものだが、十分な回答率 (86.7%) であり、サンプル数(429 名)も適切である。統計処理は交絡要因を踏まえた上で調整変数として投入されており、妥当かつ適切に分析されている。

【結果・知見の新しさ】

相関分析を用いて各種変数間の相関を確認し、カイ二乗検定後のロジスティック回帰分析を用いて心理的安全性とワーク・エンゲイジメント、及びその他の諸要素との関連を提示した。結果としてフィットネスクラブ従業員における心理的安全性とワーク・エンゲイジメントの関係が明らかになり、新しい知見を提示した。また、これらの結果はわかりやすく適切に図表に示されていた。

【考察および結論の妥当性】

今回の調査対象の特徴と先行研究の結果を踏まえた上で、フィットネスクラブの従業員においても心理的安全性とワーク・エンゲイジメントはポジティブな関係にあることを示した。また、同僚や上司のサポート、仕事の満足といった交絡要因についても適切に考察されていた。結論として得られた知見も適切な図表に示されていた。

【研究の当該分野における位置づけ】

離職率が高いフィットネスクラブ業界において人材の定着や健康経営の促進などの具体的施策に向けた有益な知見を提供しており、スポーツ健康科学分野に位置づけられる有意義な研究である。

【質疑に対する応答の適切性】

質問に対する応答は、研究結果と先行研究による裏付けを明示しながらできていた。心理的安全性という主査・副査にあまり馴染みの無い概念についても表現を変えながら丁寧に説明を試みていた。指摘に対しても真摯に受け止め、より研究を発展させようという意思が十分に見られた。

【論文審査の結果】

成長産業であるにもかかわらず人材マネジメントが未成熟なフィットネスクラブ業界において、新しい概念を取り入れながらワーク・エンゲイジメント向上に関する知見を提示した本調査の報告は非常に有意義な研究である。本調査はある特定の企業を対象としているため、結果を一般化するためにはより横断的な調査が必要である点を研究の限界で述べた方が良いが、研究の成果と意義は妥当かつ十分に示されており、博士（スポーツ健康科学）の学位を与えるに十分な資格を有していると判断する。